

互いを認め合う仲間と 数多くのアイデアが成長の源。

共立冷熱株式会社 様



会社概要
 ●設立：1985年
 ●年商：約12億円
 ●社員数：34名
 ●事業内容：冷凍冷蔵・空調・換気・断熱・店舗・厨房等の各種設備工事
 ●所在地：宮崎県宮崎市

代表取締役
桐原 雅大 様



PROFILE

兵庫県明石市出身の45歳。甲南大学卒業後の1997年、株式会社アメフレック(グループ会社)に入社、機器販売営業に従事する。2009年、共立冷熱株式会社に入社。2018年、代表取締役就任。また、2016年より株式会社中山山口取締役、2020年より株式会社アメフレック取締役を兼務。

趣味はゴルフと旅行。ゴルフは6年前に始め、発展途上であり。旅行は新型コロナウイルス感染症の影響で自粛中。ただ、国内未訪問の都道府県は青森・岩手・宮城の3県となっており、状況が落ち着いたら必ず訪れたいとのこと。

会社のチカラ



- 1 創業43年、地域密着で「安心出来る冷凍空調サービス」を提案・提供
- 2 平均年齢38歳、若い社員たちのアイデアを活かし、新しい事業を推進
- 3 「工事」「保守・メンテナンス」「定期洗浄・消耗品販売」、3つの柱で健全な経営を持続

危機に学び、さらに成長

共立冷熱さんは、冷凍冷蔵および空調設備のトータルエンジニアリングカンパニーである。<より良い技術の提供>と<スムーズなメンテナンス対応>でお客様からの信頼も厚い。

そんな会社にも2度の危機があった。「一度目は下請から元請への事業転換を図った1990年。この年は集客に苦戦し、法人化後に唯一赤字を記録した年となりました。二度目は宮崎県口蹄疫災害が発生した2010年。当時は売上の70~80%を畜産業関連が占めていて、設備の新設や更新は皆無という非常事態でしたが、保守・メンテナンスで耐え凌ぎました」と桐原社長は当時を振り返る。

口蹄疫災害後は顧客の業種分散を推

進。現在はスーパー、食品加工、農業法人など多岐にわたる。2011年以降は売上を回復。社員には夏冬の賞与に加え、期末賞与も9年連続で支給中だ。

社員の希望が詰まった新社屋

2020年5月、社員が効率良く、気持ちよく仕事ができるようにと新社屋を構えた同社。設計には社員も参加してアイデアを出し合った。セキュリティ強化に、社員交流スペース・シャワー室・広い駐車場の設置、横になれる畳コーナーや座り心地の良い椅子の導入など、30を超え社員の希望が反映された。さらに新社屋には津波対策が施されているため、南海トラフ地震などの緊急時には地域に社屋を開放することを決定している。

第三の給与「ピアボーナス」

同社では月給と賞与に続く第三の給与として、「ピアボーナス」制度を採用している。これは従業員同士が少額の報酬を贈り合うもので、専用サイトに同僚の仕事ぶりを称賛するコメントを投稿、または投稿されたコメントに「いいね」をすると、「共立チップ」と呼ばれるポイントを同僚に贈ることができる仕組みだ。社長を含む全従業員に毎週400ポイントが付与され、手持ちポイント内であれば送り先も送付ポイント数も自由。制度は社員に好評で、1ポイント2円換算の共立チップは毎週100%消費されている。

「お互いの頑張りを認め合う、この制度がスタートして以来、皆さんが周りの人の動きを気にするようになりました。普



1 社員が効率良く、気持ちよく仕事ができるよう、しっかりと休憩できるスペースを整備
 2 34台のサービスカーを保有することで、迅速なメンテナンス対応を可能に
 3 オフィスと倉庫を併設して、荷受・積込みの時間短縮、在庫管理の効率化を実現
 4 社員のコミュニケーション促進のために設置された、空港滑走路が一望できるテラス席



※空調・換気送風機・LED照明は、三菱電機製品を採用
 ※1 3 4は竣工写真ご提供

段は顔を合わせない同僚もいますが、サイトを通じた情報共有が図れていて、システムの年間維持費なんて安いものです」と桐原社長は笑顔で話してくれた。

「Withコロナ時代」の働き方

同社では新型コロナウイルス感染症対策として、社員を三つの班に分け、交互に休みを取ることで、社内に密な状況を作らないようにしている。出社の二班は異なるフロアを使用して接触頻度を抑制、感染リスク低減に努めている。

コロナ禍で採用方法の見直しを迫られる中、同社では1人ひとりの業務の幅を広げることで、人手不足に対応する考えだ。サービス・営業・工務の3部門を1年ごとにローテーションで勤務させ、マルチスキルを持った「スペシャリスト」を育成。現在2部門経験者が3名おり、今後予定しているサテライトオフィスを立ち上げる際には中心的役割を担うことが期待されている。

健全経営を支える3本の柱

冷凍機・空調機、約9,000台のデータベースをもつ同社。この豊富なデータを基に、冷媒変更や機器更新の提案をタイミングよく行っている。若い社員を中心に数多くのアイデアも生まれており、新たな収益につながったケースも。例えば、機器に次回の洗浄日を書いたシールを貼付、期日が迫るとハガキでお知らせして確実に洗浄を実施。その際、消耗品もあわせてチェックし、必要があれば交換することを提案している。こうした丁寧なサポートで会社の利益構造は変化。<工事><保守・メンテナンス><定期洗浄・消耗品販売>という3つの柱ができ、会社の経営はより安定した。

「健全経営でサービスを提供し続けることで雇用を生み、地域に貢献する」という目標掲げる桐原社長。次の中期計画から地域貢献への本格的な取組を開始する。目標実現に向け、着実に歩みを進める共立冷熱さんの今後に注目だ。

がんばっています

仕事も子育ても充実!

現場代理人として数多くの工物件を担当しています。部署責任者は仕事が多岐にわたり大変ではありますが、社員参加型の経営方針のもと日々新しいチャレンジがあり、やりがいと達成感はひとしおです。その一方で、家族と過ごす時間もしっかり確保できる体制が整っているため、子育て世代には有難い職場です。



工事事業部
 工務課長
柴田 貴司 様

優しい仲間たちのために。



管理部
島田 香奈子 様

入社5年目、主に買掛管理や発注荷受、勤怠管理などを担当しています。共立冷熱は優しい社員が多く、部署が違っても気軽に話せる環境ができあがっているため、困った時にはすぐに助けをもらえる働きやすい会社です。そんな仲間たちの役に立てるよう、私も日々スキルを磨いて頑張っています。